外注化阻止ニュース　第５５１号
〔発行日〕２０２１年１０月１３日
〔発　行〕動労千葉を支援する会
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館
http://www.geocities.jp/dorosien28
ＪＲの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

「ワンマンで乗客骨折」報道相次ぐ

ただちにワンマン運転の撤回を

10月6日、今年3月に外房線ワンマン車両で発生した転倒・骨折事故について、千葉日報や共同通信はじめ各紙で報道されました。4月に内房線ワンマン車両で乗客がドアに挟まれそうになったことも報じられています。

事故の原因はワンマン運転化

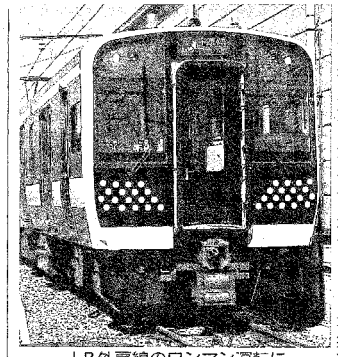
事故は2両編成のワンマン列車で起きました。転倒したのは一番後方のドアで、車掌がいれば通常見える位置です。会社も「運転士の対応に問題はまったくない」と認めています。ワンマン化が事故の原因です。小さなモニターを付けただけで「車掌がいなくても安全」とした会社のウソが暴かれています。

2021/10/06 千葉日報

（第三種郵便物認可）　千葉

ワンマン車両で男性骨折

ＪＲ外房線、導入直後



ＪＲ外房線のワンマン運転に使用している車両

今年3月に導入されたＪＲ外房線のワンマン運転車両で同月、電車を降りようとした乗客が転倒し、太ももの骨を折る重傷を負っていたことが5日、ＪＲ東日本千葉支社への取材で分かった。4月にも、内房線の同型車両で乗客がドアに挟まれそうになる事案が発生。同支社はいずれも公表していなかった。

両事案とも春のダイヤ改正で導入された新型車両「E131系」で起きた。車掌を置かないワンマン運転には、安全性に不安があると指摘する声が沿線住民らから上がっていた。

同支社は「事故に遭われた方には謝罪し、誠実に対応している。運転士の教育や乗降を視認できるモニターの設置などの安全対策を講じており、ワンマン運転は継続する」と説明している。

同支社によると、3月16日午後1時半ごろ、太東駅（いすみ市）に停車した2両編成の車両で、運転士が閉めようとしたドアに降りようとした70代男性が接触してホームに転倒した。電車は約9分遅れで発車した。

4月20日には、江見駅（鴨川市）で降りようとした高齢女性がドアに挟まれそうになった。気付いた運転士がすぐに開け、けがはなかったという。

内房、外房両線のワンマン運転を巡っては、沿線住民らが3月、導入中止を求める署名約3800筆を同支社へ提出。昨年12月には沿線自治体の館山市議会が「利用者に説明し、安全性を確認するまで導入しないことを求める」とする意見書を可決した。

そもそも、ドア扱いは車掌にとっても神経を使う作業です。今年7月には京急久里浜駅で、目が不自由な男性の指を扉に挟んだまま電車が発車する事故が発生しています。そうした負担と責任のすべてを運転士に押し付けるなど絶対に許せません。

ワンマン運転では運転士に大きな負担がかかり、安全は犠牲にされます。ツーマン運転では車掌がホーム上の安全確認やドア開閉、発車前の放送、停止位置や発車時刻の確認などを行い、運転士とともに安全を守っています。それを運転士一人に行わせるのです。

鉄道の安全を犠牲に利益を優先

その目的はコスト削減以外にありません。会社はこれまで駅要員を削減し、委託化・無人化を進めてきました。さらに「駅社員がホームにいない仕組みを構築」と打ち出しています。その上に車掌まで削減すれば、鉄道の安全はもっと破壊されてしまいます。

鉄道は公共交通機関です。「利益」を基準に物事を進めること自体が根本的に間違っています。利益のために鉄道の安全と地域住民の生活を犠牲にさせてはなりません。その矛盾を労働者に押し付けることも許せません。